

## ダニエル書 - 第百三十三番

預言のタペストリーを解き明かす：十四万四千人に印が押される時への洞察

Jeff Pippenger  
2024-03-13

すべての預言者は互いに一致しており、彼らは自分たちが生きた時代よりも世の終わりについて、より具体的に証ししている。彼らの証しは、十四万四千人の封印の時期という預言的な期間に適用されるべきである。というのも、すべての幻の成就是そこで起こるからである。イザヤは第六章で、幻の中で、十四万四千人の封印の時期に、至聖所を見ることを許され、そこで神の栄光を見た。それが2001年9月11日以後であったことは、三節で彼が、地がそのとき神の栄光で満ちていると天使たちが告げるのを聞いたことからわかる。

神がご自分の民へのメッセージを携えてイザヤを遣わそうとされたとき、まず預言者に、聖所のうちの至聖所を幻のうちにのぞき見ることを許された。にわかには、神殿の門と内垂れ幕が引き上げられ、あるいは取りのけられたかのように見え、彼には、預言者の足さえ踏み入れることのできない至聖所の内を見つめることが許された。そこには、高くあげられた御座に着いておられるエホバの幻が彼の前に現れ、その栄光の衣の裾が神殿に満ちていた。御座の周りには、大いなる王の護衛のようにセラフィムがいて、彼らは自分たちを取り囲む栄光を映し出していた。彼らの賛美の歌が深い崇敬の調べで響き渡ると、門の柱は地震に揺さぶられたかのように震えた。罪に汚されていない唇で、これらの天使は神への賛美をほとばしらせた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主」と彼らは叫んだ。「全地はその栄光で満ちている。」 [イザヤ書6:1-8参照。]

御座のまわりの熾天使たちは、神の栄光を仰ぎ見て畏敬の念に満たされ、片時も自分自身を賞賛の目で見ることはない。彼らの賛美は万軍の主にささげられている。やがて全地が御栄光で満たされる未来を見つめつつ、勝利の歌が調べ美しい詠唱となって互いにこだまし、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主」と響き渡る。彼らは神をあがめることで全く満ち足りている。御前にとどまり、御喜びの微笑みのもとにあって、彼らはそれ以上何も望まない。御かたちを帯び、御命に従い、神を礼拝することにおいて、彼らの最高の志は達せられる。福音の働き人、21。

イザヤと同様に、預言者エゼキエルも至聖所の中を見ることを許された。エゼキエルの幻は第1章1節に始まる。

第三十年の第四の月の五日に、わたしがケバル川のほとりで捕囚のうちにいたとき、天が開かれて、わたしは神の幻を見た。エゼキエル書 1:1。

彼の幻は何章にもわたって続き、第8章と第9章でも同じ幻が続いており、そこでは十四万四千人に印が押されることが明らかにされている。これは彼の綿密な証言からわかる。

第六年の第六の月の五日、私が自分の家に座しており、ユダの長老たちが私の前に座っていたとき、神である主の御手がそこで私の上に臨んだ。私が見ると、見よ、火のような姿をしたものがいた。腰から下に見えるところは火のようで、腰から上は輝きのようで、琥珀の色のものであった。彼は手の形を差し伸べ、私の頭の髪のひとつをつかんだ。すると霊が私を地と天との間に持ち上げ、神の幻のうちに私をエルサレムへ、北を向く内なる門の入口へと連れて行った。そこには、妬みを引き起こす妬みの像の座があった。見よ、イスラエルの神の栄光がそこにあり、私が平地で見た幻と同じであった。エゼキエル書 8:1-4。

第8章と第9章にある、十四万四千人の封印の過程で形成される二つの階級を示す幻は、エゼキエルが「平地で」見た「その幻に従って」いた。彼が平地で見たその幻は、第3章で示されている。

そのとき、そこに主の御手が私の上に臨み、主は私に言われた。「立って、平地に出よ。そこで、わたしはあなたと語ろう。」そこで私は立ち上がり、平地に出て行った。すると、見よ、主の栄光がそこに立っていた。ケバル川のほとりで私が見た栄光のようであった。私は顔を地に伏せた。エゼキエル書 3:22、23。

エゼキエルの「平地」の幻は、エゼキエルが「ケバル川のほとりで見た」「栄光」と同じであり、それは第一章一節の幻であった。第九章の封印の幻と「平地」の幻は、ケバル川の幻の単なる継続にすぎなかった。それは、ちょうどイザヤの幻がそうであったように、十四万四千人の封印の期間における至聖所の神の栄光の幻であった。イザヤの幻は、封印の時に使者たちを起こされるという神の業を明らかにしていたが、エゼキエルは第二章と第三章で、その同じ業をイザヤよりも詳しく明らかにしている。というのも、彼はラオデキヤのアドベンティズムにメッセージを運ぶべき一人の使者を描写しており、見過ごされつつある反逆の民に携えるべきそのメッセージを理解するために、エゼキエルは、2001年9月11日に降りてきたとき御使いの手にあった小さな巻物を食べるよう命じられているからである。

さらに彼は私に言った。「人の子よ、見いだすものを食べよ。さあ、この巻物を食べ、行ってイスラエルの家に語れ。」そこで私は口を開けると、彼は私にその巻物を食べさせた。彼は私に言った。「人の子よ、あなたの腹にそれを収め、わたしが与えるこの巻物であなたのはらわたを満たせ。」それで私はそれを食べた。するとそれは私の口に甘く、蜜のようであった。彼はまた私に言った。「人の子よ、行け。イスラエルの家に行き、わたしの言葉をもって彼らに語れ。あなたは、言葉が異なり難しい言語の民に遣わされるのではなく、イスラエルの家に遣わされるのだ。あなたが理解できない、言葉が異なり難しい言語の多くの民にではない。もしわたしがあなたを彼らに遣わしたなら、彼らは必ずあなたに聞き従ったであろう。しかしイスラエルの家はあなたに聞き従わない。彼らはわたしにも聞き従わないからだ。イスラエルの家はことごとく厚顔で、心がかたくなである。見よ、わたしはあなたの顔を彼らの顔に向かって堅くし、あなたの額を彼らの額に向かって堅くした。わたしはあなたの額を燧石よりもなお硬い金剛石のようにした。彼らを恐れるな。彼らの顔つきを見ておののくな。たとい彼らが反逆の家であっても。」エゼキエル書 3:1-9

聖書における異邦人はよそ者であり、よそ者は異国の言葉を話す。エゼキエルは現代イスラエルの家に遣わされたが、封印の時にそれはラオデキア状態にあるセブンスデー・アドベンチスト教会であり、今や見過ごされつつある。封印の時にける十四万四千の者たちに関するメッセージは、まず裁かれる神の教会に向けられており、そして間もなく到来する日曜法の際に、黙示録18章の第二の声が、神の異邦人の群れをバビロンから呼び出す。イザヤは6章で、ラオデキアのメッセージを携えて反逆の家に遣わされるといふ召しを受け入れる者たちを代表しているが、彼は、彼らが見ても悟らず、聞いても理解しない民であると前もって警告されている。イザヤはその性質を6章に記しており、イエスはまさにその箇所を引用し、その性質を、キリストの時代に見過ごされつつあった論難を繰り返すユダヤ人に当てはめた。

エゼキエルは第12章でもまったく同じ用語を用いており、それによって第12章を十四万四千人の封印の時に明確に位置づけている。

主の言葉がまた私に臨み、こう言われた。「人の子よ、あなたは反逆の家のただ中に住んでいる。彼らには見る目があっても見ない、聞く耳があっても聞かない。彼らは反逆の家だからである。」エゼキエル書 12:1, 2

エゼキエル書第十二章は、十四万四千人の封印の時を示しており、その中で、エルサレムの民を支配するエフライムの酔漢たち、すなわち封印された書を読むことのできない酔漢たちが唱える偽りの「後の雨」のメッセージを取り上げている。彼らの偽りの「後の雨」のメッセージは、神の言葉にある預言の幻を、はるか未来のこととしてしまうことに基づいている。

3節から15節で、エゼキエルは、神の民がバビロンの捕囚に入っていくことを示すように命じられる。バビロンでの捕囚は、間近に迫る日曜令を表している。続く16節から20節では、彼は、大地震の時、すなわち間近に迫る日曜令の時に始まる都市の破壊に伴う飢饉を指摘する。その危機の時期における田園生活の利点がそこで示され、さらに21節から28節では、ミラー派の歴史において現代の真理として認められた箇所が示される。その箇所は、書物『The Great Controversy』の中のミラー派の歴史の記述において、一字一句そのまま引用されている。

主の言葉が私に臨んだ。「人の子よ、イスラエルの地で彼らが言っている『日は長引き、すべての幻は外れる』というあの諺は何か。だから彼らに告げよ。『神である主はこう言われる。わたしはこの諺をやめさせる。イスラエルではもはやこれを諺として用いない。むしろ彼らにこう言え。「日は近く、すべての幻の成就も近い。」』イスラエルの家のうちには、もはやむなしい幻も、へつらいの占いもない。わたしは主である。わたしが語れば、わたしの語る言葉は成就し、もはや引き延ばされることはない。反逆の家よ、あなたがたの日に、わたしは言葉を語り、それを行う、と神である主は言われる。」さらに主の言葉が私に臨んだ。「人の子よ、見よ、イスラエルの家の者たちはこう言っている。『彼が見る幻は多くの日の後のことであり、彼は遠い時代について預言している。』それゆえ彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしの言葉は、もはや一つとして引き延ばされない。わたしが語った言葉は行われる。』と神である主は言われる。」エゼキエル書12章21-28節

十四万四千人の封印の時に提示される偽の後の雨のメッセージは、「日は延び、すべての幻は消えうせる」と主張する。結局のところ、モーセ、エリヤ、エゼキエル、イザヤ、そしてヨハネに象徴されるあの使者たちは、2020年7月18日の予言に失敗したのではなかったか。そのときのラオデキア的アドベンチストのメッセージは、「彼が見る幻はなお多くの日のちのためであり、彼は遠くの時代について預言している」というものである。その歴史においては、すべての幻が成就するだけでなく、使者は現代イスラエルの失われた家にこう告げることになっている。「神である主はこう言われる。『わたしはラオデキア的アドベンチズムの偽りの「ことわざ」をやめさせる。』」彼らに告げよ、「日は近づき、すべての幻の成就も近い」と。「『わたしの言葉は、もはやこれ以上延ばされることはない。わたしが語った言葉は実行される』と、神である主は言われる。」

ラオデキアのメッセージは、すべての幻が成就する「日々」が間近に来ていることを示すことを求めており、その「日々」とは、十四万四千人の封印の時である。この箇所で見落としてはならない要点は、その「日々」-すなわち封印の時期を表す期間-において、神がラオデキア的アドベンチズムの「むなしい幻」「へつらいの占い」そして偽りの「ことわざ」をやめさせると、直接述べておられるということである。神は、間もなく到来する日曜法の前に、彼らの偽りの「後の雨」のメッセージをやめさせる。というのも、神はご自身が言及しておられるその「日々」のうちに、それをやめさせるからである。神は、間もなく来る日曜法の時に旗印として立てられるよう選ばれている者たちを高く掲げつつ、真の「後の雨」のメッセージを確証することによって、それをやめさせる。その選ばれた者たちは、「地震」の前に封印される。

彼が偽の「後の雨」のメッセージにまつわるむなしいことわざをやめさせるもう一つの方法は、予期せず、しかも次第に激しさを増していく神の裁きが到来することによってである。それは闇の子らには圧倒的な不意打ちとなって襲いかかるが、光の子らがこれまで予告してきたまさにそのメッセージの一部である。私たちが今入りつつある歴史は、まさに神の裁きに直面しようとしている。これらの裁きは神の言葉の中に繰り返し示されており、2001年9月11日に始まった封印の期間こそ、神の裁きに関する幻を含むあらゆる幻が到達しなければならない点である。というのも、神の言葉は決して成就し損なうことがないからである。

以前の記事で、ダニエル書の最初の三章が、黙示録第14章の三天使のメッセージを表していることを示しました。第二章は第二の天使のメッセージであり、ゆえに封印の期間における第二の試練の象徴です。最初の試練は第一章であり、それは人が天の食物を選ぶのか、それともバビロンの食物を選ぶのかという食事の試練でした。第二章は、王国を象徴する獣の像に関するネブカドネザルの夢の中に隠された真理によって表されていました。

ダニエル書第2章は、十四万四千人の封印の期間における獣の像の試練を表しており、ネブカドネザルが夢を思い出せなかったため、それには隠された理解が含まれている。これは、十四万四千人の歴史の中で封印が解かれる隠された真理と、その像に示されている聖書の預言における諸王国に関する隠された真理を表している。それはダニエルと三人の勇士にとって、またバビロンの食物を食していたカルデヤの賢者たちにとっても、生死を分ける試練であった。

エレン・ホワイトは、「獣の像は恩恵期間が閉じる前に形成される. というのも、それは神の民に対する大いなる試練であり、それによって彼らの永遠の運命が決定されるからである」と示された. ネブカドネザルの隠された夢は、その試練を表している. すべての幻の成就がもはや引き延ばされないこの時代に明らかにされた像の隠された真理とは、アルファでありオメガであるイエスが、聖書預言における諸王国に関する最初と最後の言及において、第八の獣が七つから出ていることを示されたということである.

黙示録第十七章の八番目の獣、すなわち七つに属するその者は、地上の王座に返り咲いた教皇権であり、明らかにされたさらに深い秘められた秘密とは、アメリカ合衆国がこの国において獣の像を形づくるとき、合衆国自身もまた「七つに属しつつ八番目である」という現象を表すようになる、ということである. 1989年に始まった終わりの時以来の六番目の大統領、すなわち竜の全領域をかき立てた富裕な大統領は、2020年に進歩派のウォーク的リベラル・グローバリストの手にかかり、致命的な政治的傷を負った. というのも、黙示録第十一章の無神論的な獣によって、共和党の角が街頭で暗殺されたからである.

同時に、第三天使の運動は、黙示録第十一章の無神論的な獣の手によって、2020年7月18日に致命的な傷を受けた. その運動はラオデキヤのセブンスデー・アドベンチストたちから成っていたが、2023年には第三天使のフィラデルフィア運動として起こされた. 両方の角は2020年に打ち倒され、象徴的な三日半の後に両方の角が再び立ち上がる. 獣の像の政治的形成とは、アメリカ合衆国における教会と国家の結合から成ることであり、終わりの日々に彼らが像を造る獣は、第八の獣であり、すなわち七つから出たものである. アメリカ合衆国で獣の像が形成されるとき、それはローマの第八の獣のまさにその預言的屬性を備えることになる.

獣の像の試練が真のプロテスタントの角に臨むとき、地の獣の両の角における獣の像の形成に関する預言的真理を認める者たちは、キリストの像によって永遠に封印される. 人をへつらう虚しい幻を受け入れた愚かな乙女たちは、永遠のものとして獣の像を形作ってしまっていることになる.

地上の支配者の事柄をも超えて主宰する力を明らかにする象徴が、彼の驚いた目の前に描き出されたとき、預言者エゼキエルが見たのはまさにこれであった. 互いに交差する車輪が、四つの生き物によって動かされていた. これらすべてのはるか上には「サファイアのように見える玉座のかたちがあり、その玉座のかたちの上には、あたかも人の姿のようなかたちが座していた」. エゼキエル書 1:26、RSV.

一見すると混乱しているかのように見えるほど複雑なその車輪は、完全な調和のうちに動いていた. 天の御使いたちがその車輪を動かしていた. 人間の出来事の複雑な成り行きは、神の支配のもとにある. 諸国の争いと騒擾のただ中であっても、ケルビムの上に座しておられる方は、なおこの地の事柄を導いておられる. すべての国々と個人に、神はご自身の偉大な計画の中でそれぞれの位置を定めておられる. 今日、人々も諸国も自らの選択によって自らの運命を定めており、神はご自身の目的を成就するために万事を摂理しておられる.

大いなるI AMが御言葉のうちにお与えになった預言は、時代の流れの中で私たちがどこにいるのかを告げている。現在に至るまで預言が前もって告げてきたすべてのことは歴史のページに跡づけられており、なおこれから起こるすべてのことも、その順序に従って成就する。

時のしるしは、私たちが偉大で厳粛な出来事の門口に立っていることを告げている。世界のすべてが動揺している。救い主は、ご自身の来臨に先立つ出来事についてこう預言された。「あなたがたは戦争と戦争のうわさを聞くであろう…。民族は民族に、国は国に対して立ち上がり、また、ききんと疫病と地震が、さまざまな場所で起こるであろう」。マタイ 24:6, 7. 為政者や政治家たちは、偉大で決定的な何かがまもなく起ころうとしており、世界が空前の大危機の瀬戸際にあることを認識している。

すでに前兆の影を投げかけ、その接近の響きが地を震わせ、人々の心を恐れあまり挫けさせている出来事について、正しい見通しを与えるのは、聖書、ただ聖書のみである。「見よ、主は地を荒廃させ、これを荒れ果てさせ、その表をねじ曲げ、その住民を散らされる。」「彼らは法を踏み越え、掟を犯し、永遠の契約を破ったからである。それゆえ、呪いが地を食い尽くし、その住民は自らの咎のために苦しむ。」イザヤ書24:1、5、6 (RSV)。

『ああ！その日は大いなる日で、それに並ぶものはない。まさしくヤコブの苦難の時である。しかし、彼はその中から救い出される。』エレミヤ書30章7節。

「あなたが、わが避け所である主、いと高き方を、あなたの住まいとしたからである。災いはあなたにふりかからず、いかなる疫病もあなたの住まいに近づかない。」詩篇91:9、10。

神は、ご自分の教会が最大の危機に瀕する時にも、決して見捨てない。神は救いを約束しておられる。神の御国の原則は、日の下のすべての者に尊ばれるであろう。Historical Sketches 277-279。

「人間の出来事の複雑な絡み合い」は、封印の時に、至聖所に関するエゼキエルの幻で、車輪が車輪と交差する情景によって表されていた。これらの出来事は神の支配のもとにある。というのも、それらは神の言葉のすべての幻の成就であり、その幻は封印の時において最終的かつ完全に実現するからである。「世界がまさに直面しようとしている」「途方もない危機」を示す「音」がある。その「音」は、「地を震わせ、人々の心を恐怖のあまり挫けさせる」。地の震えも、人々の心が恐れで挫けることも、第三の災いである第七にして最後のラッパの響きの象徴である。

第三のわざわいにおけるイスラムが諸国民を怒らせるさまは、陣痛に苦しむ女のようにあり、したがって、増大し激化していく危機を表している。そのエスカレートする危機は2001年9月11日に始まり、2023年10月7日には次の激しい陣痛が襲い、そして神の御言葉は決して失敗しないのだから、次の陣痛はまもなく来て、さらに破壊的なものとなる。あなたはまだ都市に住んでいますか？

次回の記事でこの研究を続けます。

「預言者には、輪の中の輪、その輪に連なった生き物の姿、すべてが複雑で説明しがたいものに思われた。しかし無限の知恵の御手はその輪の間に見いだされ、その働きの結果は完全な秩序である。神の御手に導かれるすべての輪は、他のすべての輪と完全な調和のうちに働く。私は、人間の手段が、力を過度に求め、自分たちでその働きを支配しようとする傾向があることを示された。彼らは、力ある働き手である主なる神を、自らの方法や計画からあまりにも除外してしまい、働きの前進に関わるすべてのことを神にゆだねようとしな。だれひとりとして、大いなる『わたしはある』なるお方に属する事柄を、自分で取り仕切ることができるなど一瞬たりとも思い込むべきではない。神は御摂理のうちに、その働きが人間の働き手によって行われるための道を備えておられる。ゆえに、各々は自らの務めの持ち場に立ってこの時のために自分の分を果たし、神こそ自分の教師であることを知りなさい。」『証言』第9巻、259頁。